

餌料生物の培養

荒木 茂

目 的

オニオコゼ・キジハタおよびアユの種苗生産に必要なシオミズツボワムシ（以下、ワムシという。）を安定供給することを目的に前期（6月～9月）後期（11月～1月）の間培養を行った。

方 法

1 ワムシ

1) 前期

培養水槽は、1m³パンライトで最大10面を使用した。

培養方法は、3/4海水とし水温26～28に調整して、植え継ぎ密度150個体/mlとした。キジハタ・オニオコゼの生産状況により1槽または2槽の72時間バッチ方式とした。

餌料は、市販の濃縮生クロレラ（以下、生クロという。）を、植え継ぎ時400mlを与え補充餌料として生クロを適量及び油脂酵母を1.0～1.5g/100万個体与えた。

2) 後期

培養水槽は、1m³パンライトで最大6面を使用した。

培養方法は、3/4海水とし水温26～28に調整して、植え継ぎ密度150個体/mlとし、1槽の72時間バッチ方式とした。

餌料は、前期と同じく生クロを植え継ぎ時400mlを与え補充餌料として生クロを適量及び油脂酵母を1.0～1.5g/100万個体与えた。

結 果

1 ワムシ

1) 前期

ワムシの生産結果を図1に示す。

今年度の生産量は、2.68～20億個体の範囲で延べ59日間生産した。総生産量は556.04億個体。日平均生産量は9.42億個体であった。

2) 後期

ワムシの生産結果を図2に示す

今年度の生産量は、3.6～10億個体の範囲で延べ64日間生産した。総生産量は413.94億個体。日平

均生産量は6.47億個体であった。

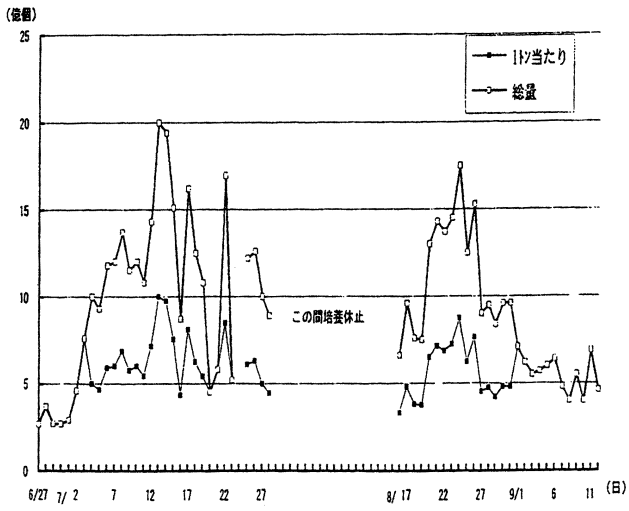


図1 ワムシ生産量(前期)

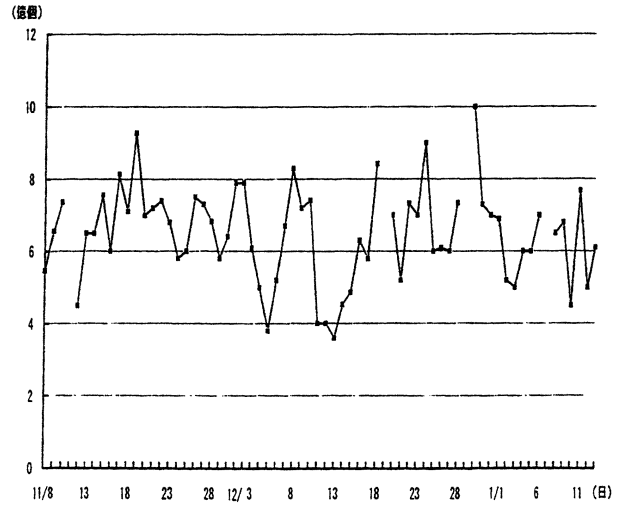


図2 ワムシ生産量(後期)